



あんずぐみ くれよん 6月号

1歳児は運動・言葉・生活習慣の発達がぐんと進み、日々の生活の中で“できること”がどんどん広がっていきます。また自我が芽生え始め“自分でやりたい”という自己主張が出てくる時期でもあります。この時期の成長を支えるために子どもたちとの関わりの中で保育者が大切にしていることをお伝えさせていただきます。

安心できる環境づくり

ひとりひとりの気持ちに寄り添い、受け止めながらスキンシップや穏やかな声掛け、生活の流れを大切に安心してできる環境づくりに努めています。「おむつ替えようね」「園庭に遊びに行こう」「鼻水ふいてもいい？」などその都度言葉を添えることで子どもたちが見通しをもって安心して過ごせるように意識しています。「できたね」「たのしいね」を共感しながら関わることで子どもたちの笑顔や“もっとやりたい”といった挑戦も増えているように感じます！

思いを受け止めてもらう経験は自分の気持ちを表現していいんだという安心感や自己肯定感の土台にもなります。「子ども一人一人が自分らしく安心して過ごせる」そんな環境を目指しています！

意思決定

毎日の生活の中で「どっち使う？」と遊ぶ玩具を子どもに選択してもらったり、ご飯を「まだ食べる？もうおしまいにする？」と聞いてみたりあんず組では子どもの「意思決定を大切にしたい保育」を実践しています。1歳児はまだ言葉での説明が難しいぶん表情・指さし・嫌がるなど様々な方法で自分の要求や思いを伝えています。一方的に大人が身の回りのこと(着替えや食事などの生活行為)を進めるのではなく、表情や仕草、声などから“嫌だったかな”“やってもいいかな”と子どもの意思を確認するようにしています。赤ちゃんだから、まだ小さいから分からないではなく、一人の人間として気持ちを尊重し関わっています。また「○○したかったね」「びっくりしたね」など子どもの気持ちを言葉にして伝える“気持ちの言語化”も大切にしています。気持ちを言葉にすることで感情が整理され自分はいまこういう気持ちなんだと自分の気持ちを知る自己理解にも繋がっていくのです。自分の気持ちを知る、それを相手に伝えられるようになるために日々生活を積み重ねる中で練習しています。

今後、心の成長に伴って自分でやりたいけど上手くできない…泣く！怒る！で気持ちを表現することが増えてくると思います。いやいや期とも言われていますね😊

成長の証とは分かっているけど、大人にとっては大変に感じる部分があるかもしれません。子育てをするなかで悩んだり、不安に感じたりすることもあると思います。そんな時には小さなことでも大丈夫ですので、いつでもお気軽に相談してくださいね。子どもたちの成長と一緒に喜び見守っていきましょう！！